

8.7 生物・生態系

8.7.1 現況調査

(1)調査事項

計画道路は、トンネル等区間において自然保護条例により指定された「連光寺・若葉台里山保全地域」の湿地の南側をトンネル構造で通過し、湿地を形成する地下水への影響が考えられることから、以下の調査項目を選定しました。

ア 生物

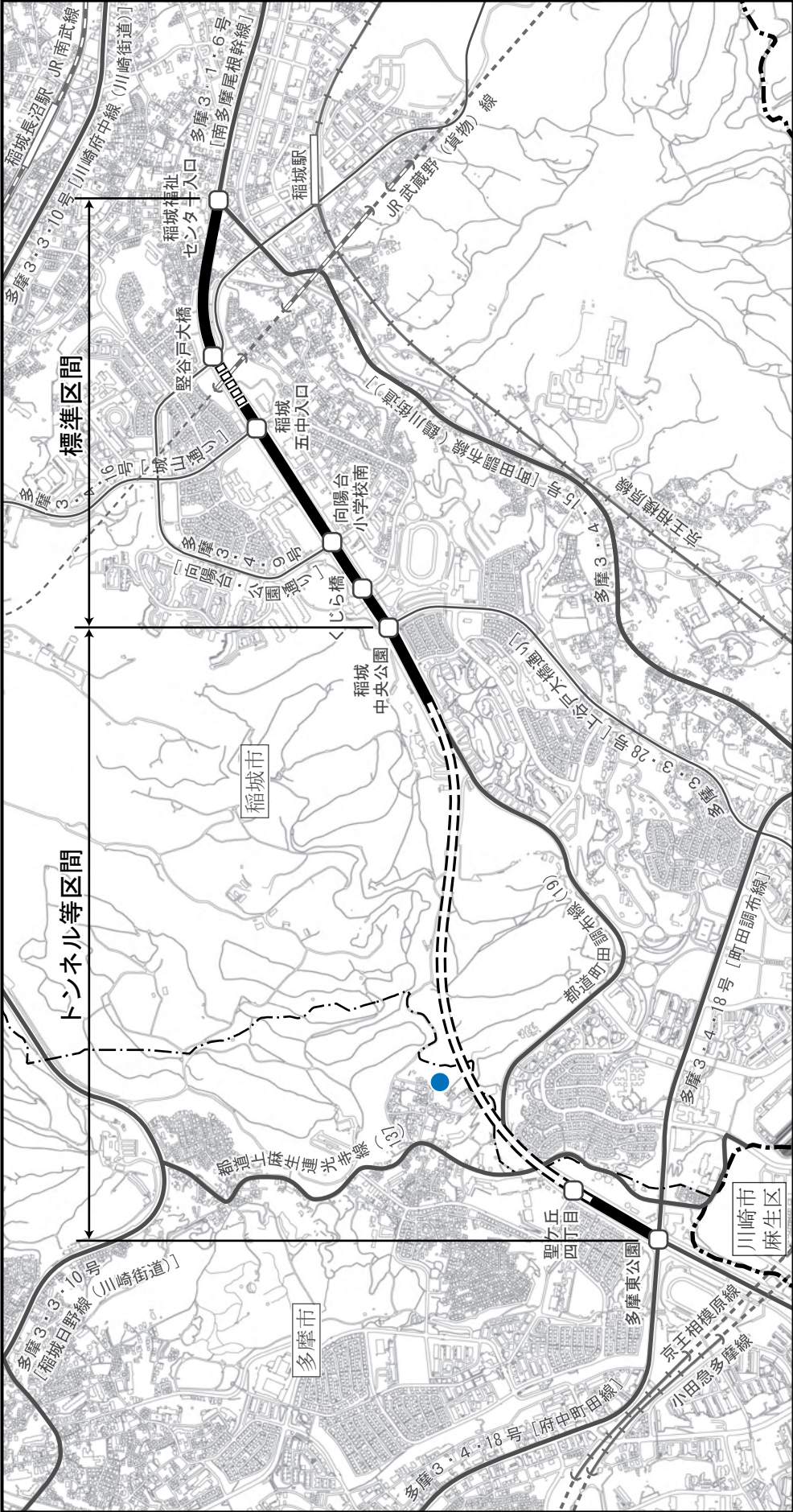
- a 水生生物（湿地の生物）の状況
- b 生息(育)環境
- c 法令による基準等

イ 生態系

- a 陸水域生態系（湿地）の状況
- b 法令による基準等

(2)調査地域

生物、生態系の調査地域は、図 8.7-1 に示すとおりです。



凡 例

計画道路 (平面構造)	交差点
計画道路 (トンネル構造)	鉄道
計画道路 (橋りょう構造)	調査地域
都県界	
市界	
道路 (主要地方道・一般都道)	
道路 (計画道路と交差する主な市道)	

1:20,000

N

0 0.5 1km

図 8. 7-1 (1) 生物・生態系の調査地域
【広域図】



凡 例

計画道路

--- 計画道路（トンネル構造）

その他

--- 市界

□ 調査地域

図8. 7-1 (2) 生物・生態系の調査地域
【詳細図】



1:4,000

0 100 200m

(3) 調査方法

ア 生物

a 水生生物の状況

次に示す二つの既存資料から、調査地域の水生生物の状況に関する情報を抽出し、整理しました。

【使用した既存資料】

- ①「平成 24 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」（平成 25 年 3 月 東京都環境局）
- ②「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」（平成 26 年 3 月 東京都環境局）

b 生息(育)環境

「a 水生生物の状況」と同じ資料から、調査地域の生息(育)環境に関する情報を抽出し、整理しました。

c 法令による基準等

関連する法令等を整理しました。

イ 生態系

a 陸水域生態系の状況

「ア 生物」に示した既存資料に基づき、調査地域の陸水域生態系の状況に関する情報を抽出し、表 8.7-1 に示す方法で整理しました。

表 8.7-1 調査方法（陸水域の生態系）

調査項目	調査方法
生態系の機能及び構造	・ 環境類型区分 既存資料の現存植生図等を基に、調査地域及びその周辺を立地環境の特徴（地形・土壌水分・植生・土地利用など）の観点から区分し、環境類型区分図を作成しました。
	・ 環境類型区分内の生物と環境との関係 生態系の類型区分の検討・選定を行った後、類型内の生物と環境との関係について整理しました。

b 法令による基準等

関連する法令等を整理しました。